

公民館 ふっさ

No.163 目次

- ① 公民館夏の平和事業特集
- ②③ 公民館ふっさ誌面講座
～出陣学徒壮行会に参列して～
- ④ 公民館これからの講座
郷土資料室からのお知らせ

令和3年8月1日

編集 発行

- 福生市公民館
- 公民館事務所
- 公民館松林分館
- 公民館白梅分館

〒197-0011 福生市福生2455 ※市民会館併設
 〒197-0024 福生市牛浜163 さくら会館内
 〒197-0013 福生市武蔵野台1丁目15-1
 〒197-0003 福生市熊川559-1

☎ 042-552-2118 FAX 042-552-2228
 ☎ 042-552-3624 FAX 042-530-2512
 ☎ 042-553-3454 FAX 042-530-2513



公民館ページ
QRコード

公民館夏の平和事業特集!

福生市公民館では、8月に、各公民館（本館・松林・白梅）で平和事業を実施します。
 公民館で、平和について考えてみませんか？

公民館本館 ☎552・2118

松林分館 ☎552・3624

白梅分館 ☎553・3454

■ヒロシマ・ナガサキ「原爆と人間」平和パネル展

広島市、長崎市に投下された原子爆弾の被害の状況を伝えるパネル展示です。

【日時】8月6日(金)～9日(月・祝) 午前10時～午後3時

【協力】ドイツ平和村をサポートする会

【場所】市民会館公民館(展示スペース) 他 ※状況により入場制限をする場合があります。

■平和講座「戦争遺跡は語る」

戦争の傷跡が残った建物などは、当時の攻撃の衝撃を物語り、その姿が悲惨な戦争を語り継いでいます。

そこから読み取れる記憶と保存していく取り組みや意義について考えます。

【日時】8月21日(土)午後1時30分～3時

【場所】さくら会館ホール

【講師】室田元美氏(ルポライター)、秋山典子氏(ドイツ平和村をサポートする会代表)

【定員】先着15人

■平和講演会「国際紛争はなぜ起きる?」紛争地域派遣経験者の生の声を聞こう!

今もなお世界の多くの地域で国同士の紛争、内戦などが起こり、平和からは程遠い国々が存在します。

松林分館では『国際平和』をテーマに、実際に内戦から国家として独立してまだ10年あまりしか経過していない南スーダン共和国に、人道支援として現地派遣経験のある方をお招きして、現地での生活や複雑化している紛争原因などについての講演会を行います。

【日時】8月22日(日)午後2時～4時

【場所】松林分館大集会室

【講師】佐藤真史氏(内閣府国際平和協力本部事務局国際平和協力研究員)

【定員】先着15人

三館(本館・松林・白梅) 共通事項

【対象】市内在住・在勤・在学の方

【申込み】8月4日(水)から午前9時～午後5時の間に、各館にて受付

【参加にあたってのお願い】

①マスクの着用、②自宅での検温、③手指消毒の徹底など、国や東京都が示す各施設の利用ガイドライン等に沿った感染症対策に御協力ください。また、今後の感染状況によっては、急遽中止や延期となる場合もありますので、御承知おきください。

※平和パネル展は当日受付名簿への記載をお願いします。

8月15日、日本は戦後76年目を迎えます。しかし、戦争や紛争が絶えず、幼い子どもたちが兵士として駆り出されるなど、平和とは程遠い情勢におかれている国や地域があります。

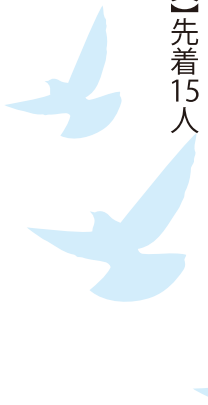
本事業は、子どもを対象に戦争や平和に関する絵本の読み聞かせを行い、平和の大切さについて理解を深めます。

【日時】8月17日(火)午前10時～11時

【場所】白梅分館集会室

【講師】福生市立中央図書館職員

【定員】先着15人(小学2年生以上)



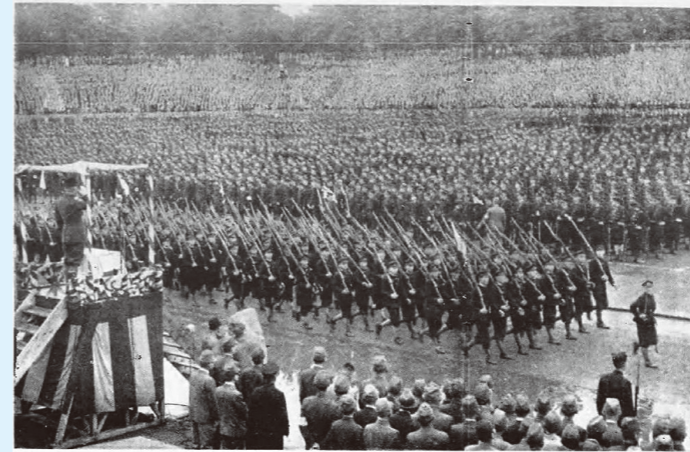
公民館ふっさ 誌面講座

出陣学徒壮行会に参列して

今年は戦後76年目を迎えます。今から78年前の昭和18年10月21日、当時女学生であった瀧島百合子さんは、明治神宮外苑競技場（現・新国立競技場）で行われた出陣学徒壮行会に参列し、戦争に出征する学生たちを見送りました。

今回は、その時現場で目撃した貴重な体験を語っていただきました。

語り手 公民館サークル「まほろばの会」瀧島百合子氏(96歳)



出陣学徒壮行会（国立公文書館蔵）

宣戦布告

昭和十六年十二月八日、我国は米英に対し宣戦布告し、大東亜戦争が始まりました。「ニイタカヤマノボレ」の号令のもと、航空隊による真珠湾攻撃が始まりました。当初は日本軍の征くところ敵なし、毎日勝ち戦の放送に、やはり日本軍は強いと思っていました。

しかし、昭和十七年終わり頃より戦局が悪化、兵力が不足してきました。昭和十八年九月三十日までは、兵法により旧制大学、高等学校、専門学校の学生は二十六歳まで徴兵を

猶予されましたが、十八年十月一日、当時の東條内閣によって在学徴集期臨時特例が公布され、二十歳以上の文科系学生、農学部学生が兵隊として徴集されることになり、それにより学徒を激励する為、出陣学徒の壮行会を行うことになりました。

出陣学徒壮行会

昭和十八年十月二十一日、明治神宮外苑競技場（現・新国立競技場）で出陣学徒壮行会が行われました。その日は、冷たい雨の降る日でした。私たち女学生は傘もささずに会場へと列を組んで行きました。

兵役を猶予されていた二十歳以上の文科系学生、農学部学生等の関係にある大学、専門学校、七十七校の二万五千人が出征兵として集められました。

学徒を見送り励ます男子学生、女子学生が九十六校より五万人が出席、観客席を埋めました。観客席は女子学生の白いブラウス、黒の上着、スカート、男子学生の黒い制服のみという色彩でした。出陣学徒は黒一色です。強いて言えば兵隊のカーキ色があるのみです。華やかさはありませんでした。

と書いていたが、それは人ではない。驚きといたたら足が棒のようになって立ちすくんでしまいました。しかし、度々このような光景を見慣れてしまうと、「昨日の空襲で亡くなったのだわ」と思うだけで、自分自身の一日を生き延びることだけを考える日々でした。

人の心がなくなってしまうのでしょうか。戦争というのは人が人になくなってしまいます。人間をおかしくさせてしまうのです。戦地で戦う兵隊さんは、さぞやと思いません。

平和な時代を願って

私の青春時代の思い出と聞かれたら、学徒出陣や空襲や戦争のことばかりで、楽しい思い出は何一つありません。

私は、大正・昭和・平成・令和と四つの時代を生きてまいりましたが、戦争のことは決して忘れることはありません。戦争は二度とあってはいけません。

今年も八月十五日の終戦記念日がやってきますが、七十六年前戦争が終わった時の気持ちは、いつまでも忘れることができません。いつまでも平和が続きますように、ただただ願うだけです。

壮行会に参列して

待つ程に東京帝国大学を先頭に、各学校の出陣学徒が校旗を掲げ、陸軍戸山学校軍楽隊による観兵式分列行進曲の吹奏にあわせ、歩調を高く入場してきました。場内は一瞬緊張のしまる思いでした。会場にいる全員が起立し、宮城（皇居）に向かって遙拝をいたしました。

まず、岡部文部大臣による開戦詔書の奉読があり、訓示がありました。次に東條首相が壇上に上がりました。首相の訓示は次の通りです。「学窓より征途につき、敵を撃滅して皇軍を扶翼せよ」との勇ましい激励でした。あの小さい身体からどうしてあの様な声が出るのかと驚きました。左手を後ろにまわした恰好が今も目に残っています。

出陣学徒を代表して、東京帝国大学文学部の学生が答辞を読み上げました。その文章は名文であり、また、読み方も大変立派でした。後世に残る昭和の名文と云われました。それは次のとおりです。「生等いまや見敵必殺の銃剣をひっさげ、積年忍苦の精進研鑽をあげて、ことごとくこの光榮ある重任にささげ、挺身をもって頑敵を撃滅せん。生等もとより生還を期せず、

最後に、私の拙い一首を出陣学徒に捧げます。

終戦日 己が脳裏に 靴音の
ひびき消えざり 学徒出陣
帰りきて 国の柱と なれかしと
祈る心は 学徒出陣



語り手 瀧島百合子氏

大正14年（1925年）生まれ（96歳）
兵庫県南あわじ市出身
帝国女子専門学校（現・相模女子大学）
に在学中の昭和18年10月21日、出陣
学徒壮行会に参列し、学徒を見送る

学徒を見送る女学生

最後に、東京帝国大学を先頭に各学校の校旗を掲げ、宮城に向かつて行進して征かれました。私たち見送りの学生は宮城へついてゆくことは出来ませんが、宮城前の景色は想像できました。

皇恩の万々に報い奉り、必ずご期待に背かざらんとす。以って答辞となす
戦後、ご本人の手記を読みますと「この文章は自分が書いたものを国文の先生が直されたものだ」とのことでした。答辞が終ると、「海ゆかば」の斉唱でした。
海行かば 水漬く屍
山行かば 草生す屍
大君の 辺にこそ死なぬ
かえりみはせじ

冷たい雨の中を制服制帽、足にはゲートルを巻き重い銃を肩に、「歩調をとれ」の合言葉の合図と共に、靴音高く一糸乱れず、出発してゆく学徒。その姿や隊列が今も目に浮かんできます。

出口近くにいた女学生が、突然学徒の列に走り寄り、「生きて帰って下さい！」と声をはりあげ、一寸した騒ぎになりました。なんともいえない思いでした。

戦争の怖さ・恐ろしさ

空襲が激しくなり、人手が足りなくなつたので、私共女子学生も半年限り上げて、九月に卒業し各々の職場に働きに行きました。私は本郷の東京帝国大学に行きました。昭和十九年初冬の頃と記憶しています。

空襲で焼け死んだ人が、本郷の裏路地に真っ黒になって横たわっていました。最初に見たときは電信柱か

公民館本館

— これからの講座のお知らせ —

大人の教養講座

「会津八一と奈良」

古都奈良を詠んだ歌人、そして書家であり、美術史家、教育者でもあった会津八一を取り上げ、八一の作品である「鹿鳴集」や「南京新唱」などから、八一の歌や人柄、そして古都奈良への思いや憧れを探っていきます。

【日時】8月28日、9月4日・11日の土曜日、午後2時〜4時

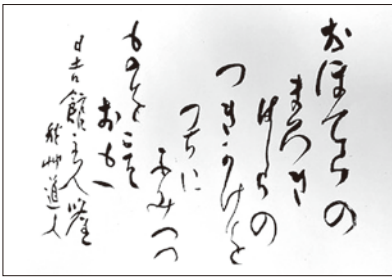
【場所】さくら会館ホール

【対象】市内在住・在勤・在学の方

【定員】先着20人

【講師】今井修氏（早稲田大学教育学部講師）

【申込み】8月5日（木）から、午前9時〜午後5時の間に、公民館公民館係 ☎552・2118）へ



おおてらの
まろき
はしらの
つきかげを
つちに
ふみつつ
ものをこそ
おもへ
秋艸道人

奈良の宿・日吉館のパンフレット（個人蔵）

予告

コロナ禍における子ども・学生の貧困実態を探る

新型コロナウイルス感染症によって、社会生活は一変してしまいました。経済は悪化し景気が低迷するなか、さらなる深刻な貧困問題が浮き彫りとなってきました。

この講座では、コロナ禍の影響を受ける子どもや学生に視点を当て、貧困の現状、課題、支援などについて、専門家からお話を伺い、貧困問題を探っていきます。

【日時】9月26日（日）午後2時〜4時

【場所】市民会館・公民館 第4・5集会室

【対象】市内在住・在勤・在学の方

【定員】先着30人

【講師】小河光治氏（子どもの貧困対策センター「公益財団法人あすのば」代表理事）

【申込み】9月5日（日）から、午前9時〜午後5時の間に、公民館公民館係 ☎552・2118）へ

コロナ禍における
子どもの貧困
社会全体で子育てする社会を！

福生市郷土資料室からのお知らせ

① 企画展示「子どもと学ぶ『平和のための戦争資料展』」

福生市郷土資料室では、毎年終戦の日に合わせて、平和の大切さを再認識することを目的とした企画展示をおこなっています。

今年度は子どもたちの学びを意識した展示と位置づけ、当時の生活や子どもに関係する資料、福生に関係する資料などを紹介するとともに、太平洋戦争を中心とした日本の近代戦争の歴史を振り返ります。

【日時】現在開催中。9月12日（日）まで

※午前10時〜午後5時

※月曜日休館

（月曜日が祝日の場合は翌平日）

【場所】福生市郷土資料室

【問合せ】生涯学習推進課文化財係 ☎530・1120）へ



「キンダーブック」昭和16年（福生市郷土資料室蔵）

② 企画展示関連事業

「戦争と平和を考えるおはなし会&ブックトーク」

企画展示「子どもと学ぶ『平和のための戦争資料展』」の開催にあわせて、子どもたちが平和の大切さを考える機会となるよう、戦争と平和を考えるおはなし会&ブックトークを実施します。あわせて戦時紙芝居の実演も行います。保護者の皆さんもお子さんと一緒に御参加いただけます。皆さんのお申し込みをお待ちしております。

【日時】8月14日（土）午前11時〜正午

【場所】福生市立中央図書館2階会議室

【対象】小学生

※未就学児は保護者同伴 ※小学生も保護者同伴可

【定員】先着15人

【申込み】福生市郷土資料室窓口または電話 ☎530・1120）へ

※「小学生わくわく土曜日」を兼ねて実施します。

※本事業は福生市中央図書館との共催事業です。